

「健康サービス」の効果測定と考察

— 選ばれる事業所に向けて —

～ 満床黒字化、離職率低下、スキルアップ～

スミリンフィルケア株式会社
グランフォレスト氷川台 フォレストライフ委員会

健康サービスのはじまり① 選ばれる事業所作りの必要性

近年多くの企業が有料老人ホーム業界に進出し、魅力的な施設が立ち並ぶ。

右図のとおり、有料老人ホームの数は毎年4%前後の増加率で推移している¹⁾(図1)。

また、入居率は全国で約87%である一方、約4分の1の施設が入居率80%未満²⁾となっている。そのため各事業所が独自で工夫を凝らし、各地域の皆様から「選ばれる事業所」作りが重要だと考える。

図1)全国有料老人ホーム施設数

《厚労省『社会福祉施設等調査』》



健康サービスのはじまり②

顧客ニーズと需要

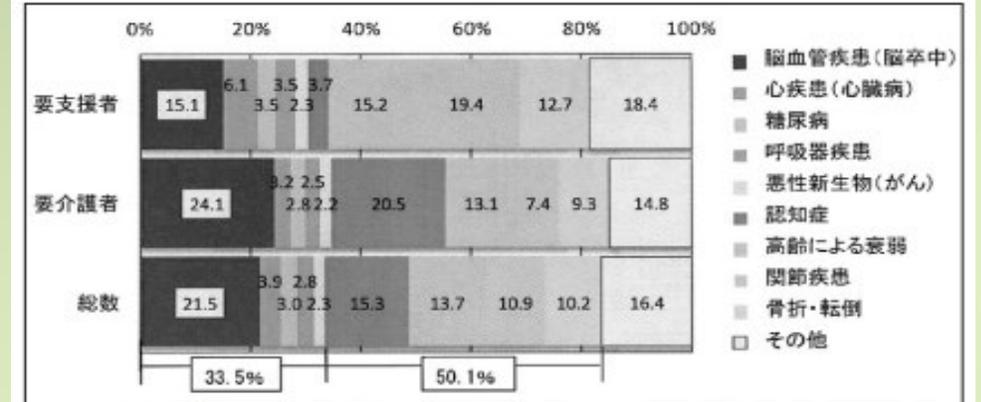


図2：要介護・要支援になった原因
(平成24年厚生労働省・高齢者白書)

では、選ばれる事業所になるために必要なことは何か？

私たちは、より多くのお客様が抱えているニーズに応えていくことだと考える。そのニーズとは“長く健康でいて欲しい”というものであり、健康や機能改善を目的とした更なる能力アップや残存能力の維持が今後より一層求められていくと予想される。

健康寿命に最も関係する「要介護・要支援になった原因」は脳血管疾患が最も多く、ついで認知症、高齢による衰弱、関節疾患、骨折・転倒と続く(図2)。機能訓練を中心とした、通所リハでは、12ヶ月間の訓練ではADL及び生活機能が向上していることが確かめられた³⁾とある。

以上のことから、リハビリテーション(以下、リハ)やレクリエーション(以下、レク)のスキルアップは怪我や病気を予防し、顧客満足度や健康寿命向上に直接影響を与えることができる強みになると考え、「健康サービス」への注力を開始した。

私たちの健康サービスとは

健康サービス



フォレストライフ



個別リハ



生活リハ



個別レク

健康サービスとは、機能訓練を中心とし、お客様のさらに輝ける暮らしを追求する生活のプログラムである。

フォレストライフ(健康サービス)⇒ ①個別リハ ②生活リハ ③個別レク

フォレストライフに注力した結果を様々な角度から考察していく。

フォレストライフのホップ！ステップ！ジャンプ！

ホップリハ(個別リハ)

ホップリハはステップに繋げる準備として、基本的な動作や基礎の訓練を行います。



専門職の具体的な機能評価と根拠のある目標を設定する。

目標達成のために週1～5回程度の個別リハを実施。

ADLを下げる病変や転倒リスクの抽出、適切な福祉用具の選定、居室内環境設定の検討。

ステップリハ(生活リハ)

ステップリハは日常生活の中で、さらに一歩ずつ前へ進むための訓練を日常的に行います。



ホップリハで向上した機能を活かし、生活動作の中で能力強化、生活範囲の向上を目指していく。

例えば、普段車椅子自立の方が、歩行器軽介助で50mの歩行を獲得した。その場合、生活リハビリとしてホーム内の移動は介助下での歩行器歩行に変更し、歩行の機会を増やしていきます。

ジャンプレク(個別レク)

ジャンプレクは自分の好きなことを、自分の好きなように挑戦していただく機会をサポートします。



ホップリハとステップリハを中心に能力を獲得。

ジャンプレクではホップリハの機能評価で設定した目標に向かって、オーダー的なレクを提供し、社会参加・QOL向上を目指します。

例えば、桜を見に行きたいという目標を叶えるために、まずは中庭散歩へ。次は近所のパン屋へ。

フォレストライフの実例

圧迫骨折急性期で入院できず
グランフォレスト氷川台を
選んで下さった実例

ホップリハ(リハ職主体)

骨折急性期のため、安静臥床期間の説明、禁忌肢位の説明、血栓予防、廃用予防実施。(約2週間)

骨癒合後、起立や歩行、ADL訓練へ。(約2ヶ月間)

情報収集と目標設定。具体的にどのような事をどれくらいでできるようになるか。またなりたいか。(情報収集と目標設定は変化に応じて常に)

ステップリハ(介護職主体)

安静臥床期間はベッド上でできる運動を実施。

訪室の機会を増やし、会話や要望を聞き取る時間を増やす。

疼痛緩和後はオムツ排泄ではなく、トイレ動作を積極的に実施。

歩行器歩行を獲得後は施設内見守りから始め、日常的に運動の機会を増やして行く。

ジャンプレク (職員・往診医・家族)

臥床期間に退屈にならないように、できる事をレクとして提案(編み物や読書等)

歩行獲得後は本人の要望に合わせてレクを実施。

まずは中庭散歩へ。次は近くのパン屋さんへ。最終的には昔大好きだった桜が見れる公園へ。

レクも段階的に目標を作り、達成感や喜びを大切にしている。

フォレストライフ 好循環の形成

ホップ個別リハ

1 周目

可動域、筋力強化、歩行訓練

2 周目

筋力強化、歩行距離、応用歩行

頑張って達成できた！
次はどこへ行こうか？
明確で根拠のあるプランを立てることで
モチベーションの維持に繋がります。

ステップ生活リハ

1 周目

介助下での歩行訓練20m

2 周目

歩行器自立で中庭散歩

ジャンプレク

1周目

近くの花屋まで見守り歩行

2周目

昔よく行ったレストランで食事

達成をモチベーションに 3 周目の新たな目標へ

半年間のフォレストライフ活動とその成果

①常勤の理学療法士を配置.

→リハビリの強化(健康サービス), 業務・選ばれるホーム化の見直しをおこなった.

②職員一人一人に満床目標を共有, 意識付け.

→見学や体験入居に取り組む意識が変わり, 3年ぶりに満床となり7月に黒字化した.

③環境整備, 適切な福祉用具の選定, 機能評価及び訓練の実施.

→FIM評価では事業所全体平均で17.5点UPし, お客様の活動範囲の拡大と職員の介護負担は軽減した. ※FIMとは機能的自立度評価法の略称である.主にリハビリの現場で活用され,日常生活の介助量を数値化するために用いられる.運動と認知の18項目から評価し,全介助では18点,完全自立で126点.

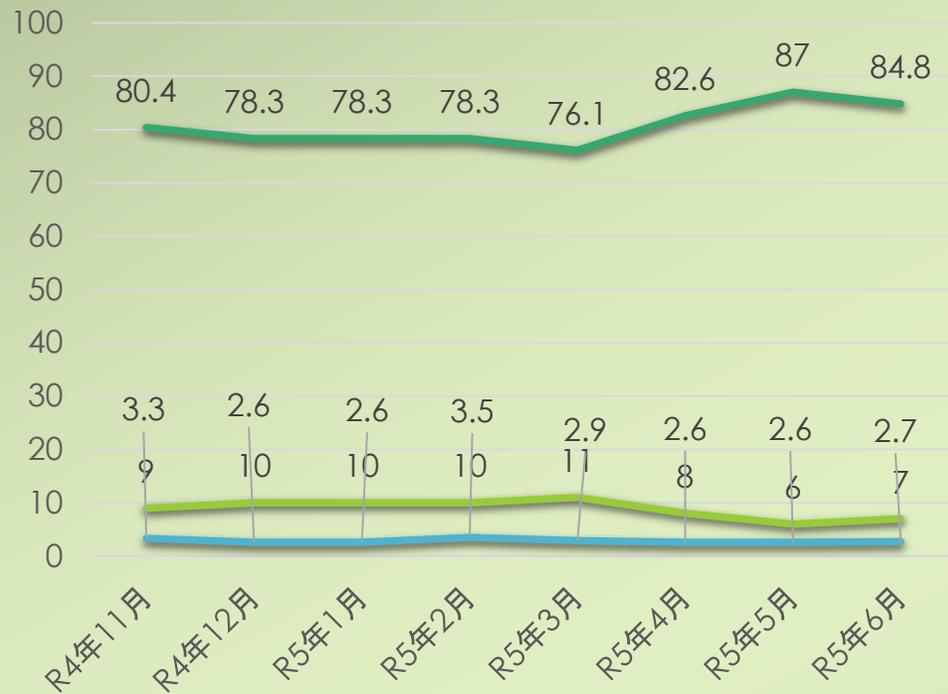
④お客様の能力を最大限に引き出す適切な介助量の共有, 施設美化に取り組んだ.

→職員一人一人のスキルアップに繋がった.

入居率の推移

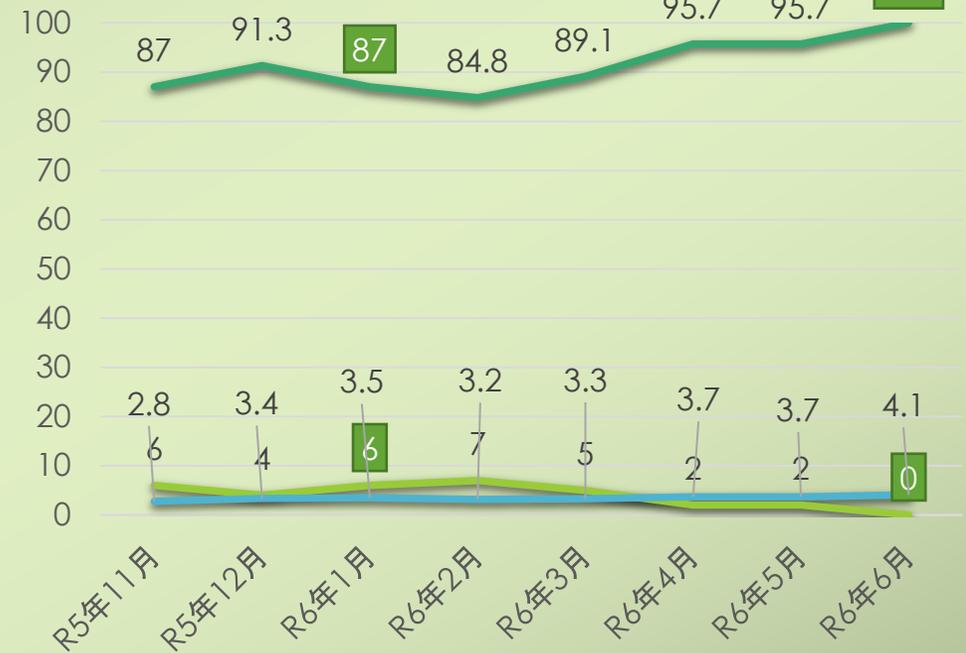
フォレストライフ
取り組み期間
2024年1月～6月(半年)

2022年11月～2023年6月



— 月末空室数 — 月末入居率(%) — 他15事業所空室平均

2023年11月～2024年6月



— 月末空室数 — 月末入居率(%) — 他15事業所空室平均

離職の人数

2023年1月～2023年12月の一年間

離職人数 9名

2024年1月～2024年6月までの半年間

離職人数 2名（やむを得ない家庭の事情による退職）

会社や職場環境への不満，仕事量，人間関係による退職は0人となりました。

結果と考察

1. 私たちが取り組んだ「健康サービス」には需要がある。
2. 体験・短期入居、空き待ちの待機入居だった方が本入居に切り替えとなった事例が4件。

お客様やご家族から『ここまで良くしてもらえて帰る事なんてできない』『楽しい事がたくさんあって、今まで諦めていた外食や旅行など、これからの楽しみがたくさんできた』という声を頂き、職員の仕事への考え方が「やらなければいけない仕事」から「やってみたい仕事」へと変化していった。

3. 仕事への思いが変わることで、仕事の取組みが変わり、職場や介護の仕事への不満が減り、離職数大幅減の一助となった。（2023年度は9件の退職,2024年度は半年間で,家庭の事情による退職の2件のみ）

課題と謝辞

フォレストライフに取り組むにあたり、多くの方にアドバイスや御配慮をいただきました。このような機会をいただけたことも含めて感謝でいっぱいです。

また個人のスキルに頼ってしまう部分もあり、職員の皆様に対し、さらなる信頼が増す一方です。

しかし会社組織ですので、人事は木や水のように流れ動いていくものです。

属人化したチームでは、環境の変化についていけず、パフォーマンスの維持が課題となる事も想像がつきます。

お客様に喜ばれる活動を「継続」していくため、これからも常に課題と向き合い、精進していく所存であります。

これを機に競合他社から協力関係となり、共にお客様の人生を明るくサポートできる関係になれることを願います。

引用文献、参考文献

1)みんなの介護

([https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000138.000015597.html](https://prt看mes.jp/main/html/rd/p/000000138.000015597.html))(2024.1.18)

2)野村総合研究所

「高齢者向け住まい及び住まい事業者の運営実態に関する調査研究報告書」(平成29年3月)

3)第48回日本理学療法学会 阪本良太 中川法一 西川明子 森實徹 阪上高志

「機能訓練に特化した短時間型通所介護における、1年後の利用者の活動性および身体機能の変化」

4)日本生理人類学会誌 草野洋介

「健康寿命のとらえ方」 Vol.22, No.1 2017, 2 45 - 47

倫理的配慮について

今回の事例発表に伴い、個人が特定にされないように配慮した。

フォレストライフの取り組みや発表、モデルケースの対象となる事をご本人とご家族様に説明しご理解をいただく。